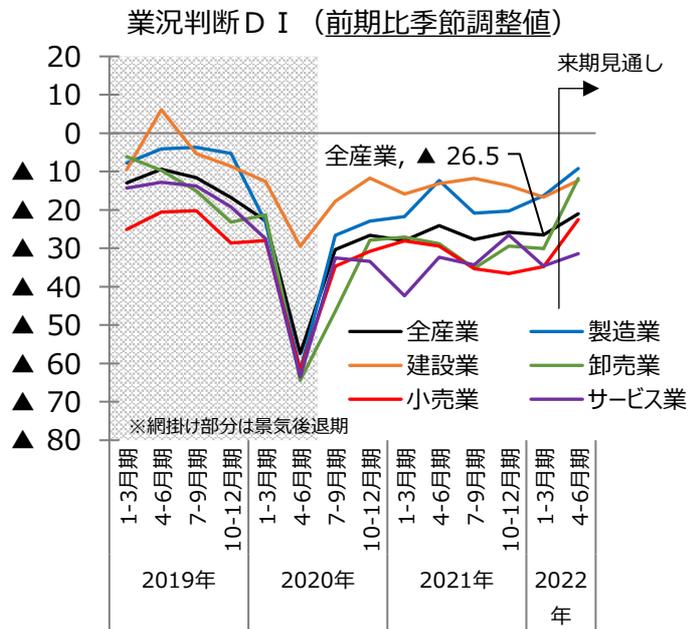


# 中小企業の景気動向について（北海道）

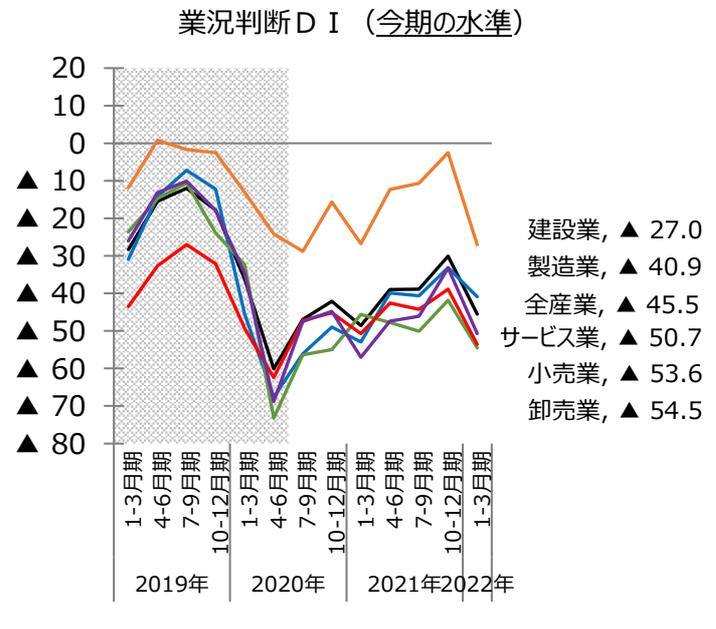
## 1 第167回中小企業景況調査（2022年1-3月期）の中小企業の業況感

北海道地域の中小企業の業況判断DI（前期比季節調整値）は、全産業で前期（2021年10-12月期）より0.7ポイント減の▲26.5と、2期ぶりに低下した。産業別に見ると、製造業と小売業で上昇し、サービス業、建設業、卸売業で低下した。来期は、5産業すべてで上昇する見通しとなった。

また、業況判断DI（今期の水準）は、5産業すべてで低下した。



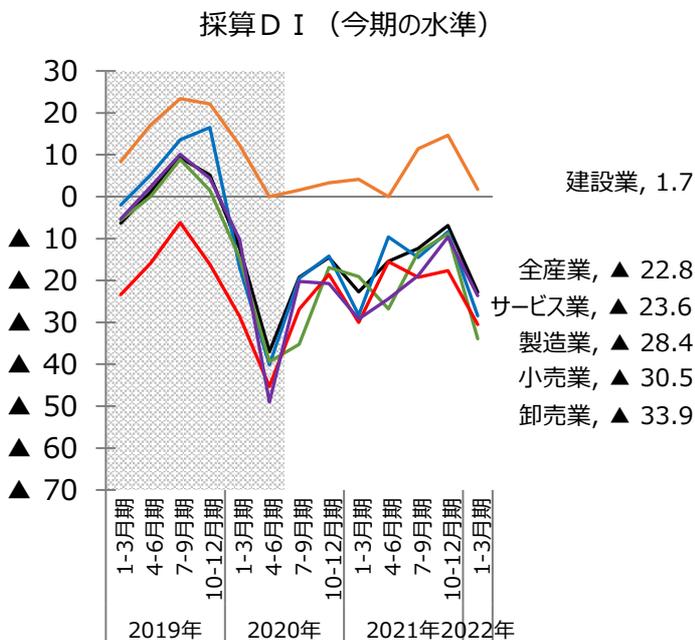
※前期（2021年10-12月期）と比べて、「好転」、「不変」、「悪化」で質問。



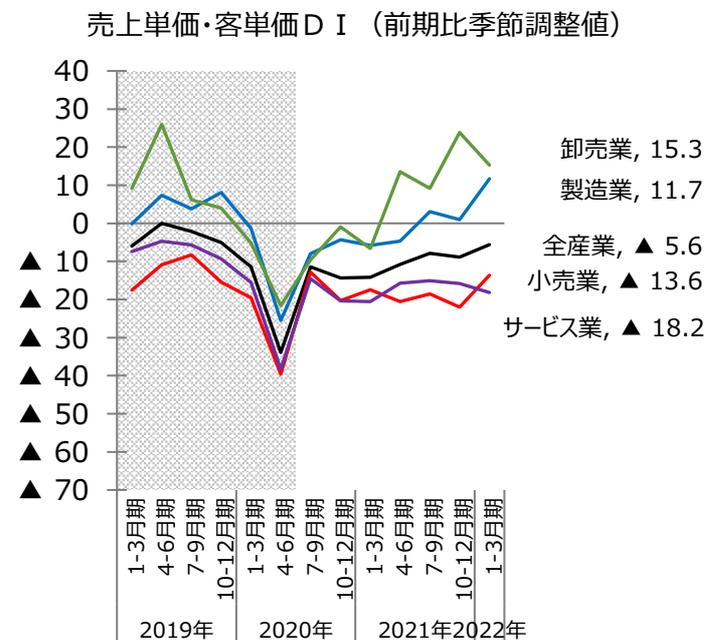
※今期の業況について「良い」、「ふつう」、「悪い」で質問。

## 2 中小企業の採算

中小企業の採算DI（今期の水準）は、全産業で前期より15.9ポイント減の▲22.8となった。産業別に見ると、すべての産業で低下した。また、売上単価、客単価の動向について、産業別の売上単価・客単価DI（前期比季節調整値）を見ると、製造業、小売業で上昇し、サービス業、卸売業で低下した。



※今期の採算について「黒字」、「収支トントン」、「赤字」で質問。



※前期（2021年10-12月期）と比べて、「上昇」、「不変」、「低下」で質問。

<調査概要> 調査時点は2022年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業  
今期の調査対象企業数18,911、有効回答企業数18,052、有効回答率95.5%、うち、北海道724企業

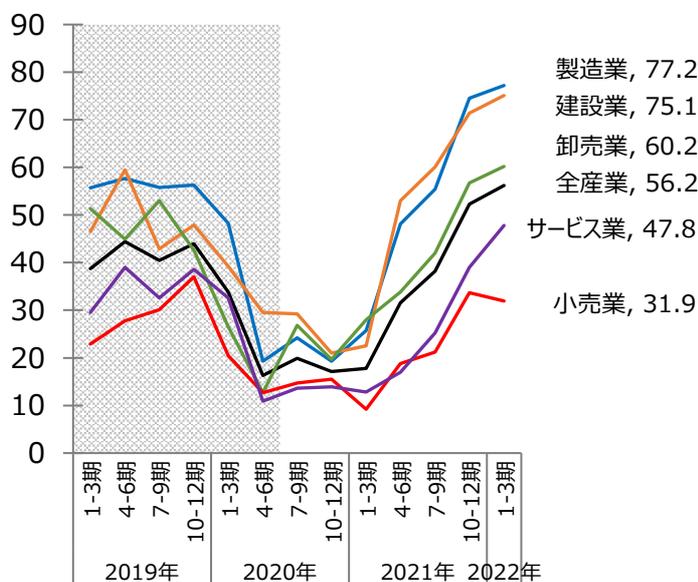
# 中小企業の景気動向について（北海道）

## 3 中小企業の仕入単価の動向

中小企業の原材料・商品仕入単価DI（前年同期比）は、全産業で前期より3.9ポイント増の56.2と5期連続して上昇した。産業別に見ると、小売業を除く4産業で上昇した。

また、産業別に見ると、製造業で1980年7-9月期の調査開始以来、2番目に高い値となり、建設業で3番目、卸売業で4番目に高い値となった。

原材料・商品仕入単価DI（産業別）



※前年同期（2021年1-3月期）と比べて「上昇」、「不変」、「低下」で質問。

原材料・商品仕入単価DI（産業別 上位順）

| 順位 | 製造業  |                | 建設業  |                |
|----|------|----------------|------|----------------|
|    | DI   | (時期)           | DI   | (時期)           |
| 1  | 79.4 | (2008年7-9月期)   | 81.5 | (1980年7-9月期)   |
| 2  | 77.2 | (2022年1-3月期)   | 78.5 | (2008年7-9月期)   |
| 3  | 74.5 | (2021年10-12月期) | 75.1 | (2022年1-3月期)   |
| 4  | 74.4 | (2008年4-6月期)   | 72.1 | (2008年4-6月期)   |
| 5  | 68.8 | (2008年1-3月期)   | 71.4 | (2021年10-12月期) |

| 順位 | 卸売業  |                |
|----|------|----------------|
|    | DI   | (時期)           |
| 1  | 71.2 | (1980年7-9月期)   |
| 2  | 65.2 | (2008年4-6月期)   |
| 3  | 64.2 | (2008年7-9月期)   |
| 4  | 60.2 | (2022年1-3月期)   |
| 5  | 59.4 | (2014年10-12月期) |

## 4 北海道の中小企業の声

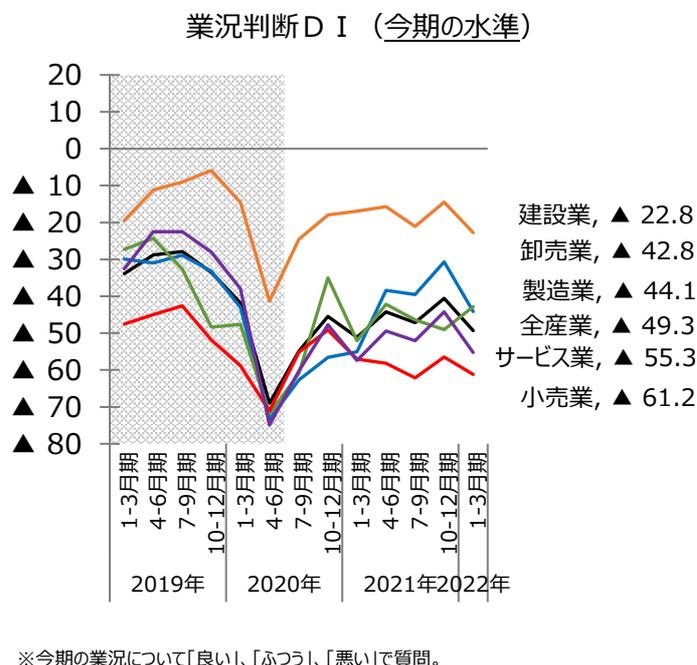
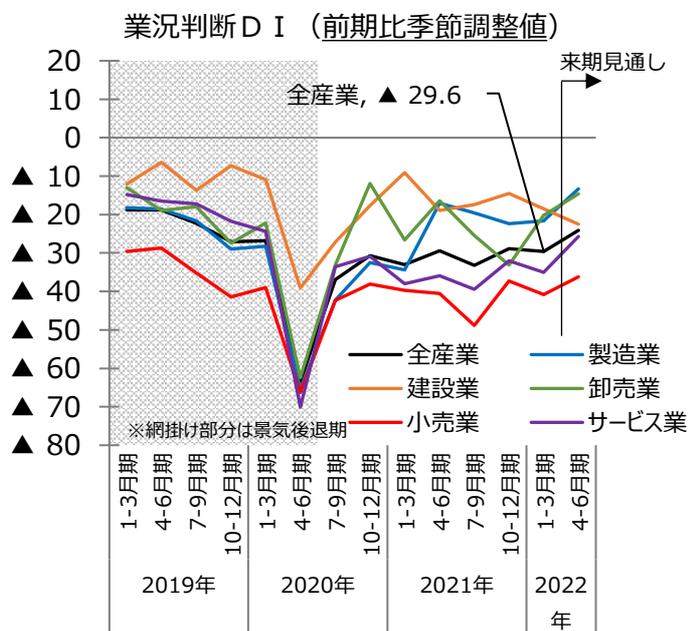
|     | 業況判断の背景   | 業種                         |
|-----|---|----------------------------|
| 現状  | 1月に入ってからコロナ禍が急速となり期待していた需要が減少となり、更に原油高騰により原紙が今期末から値上げ状況となる為、ユーザーとの交渉次第では業況悪化もありえる。                  | 製造業<br>紙器製造業               |
|     | 木材と燃料の価格が高止まりし採算は悪化傾向にある。特に木材は調達も困難になっている。今年に入って完成工事高が伸びた形になっているのは資材の調達遅れで今年の完成にずれ込んだだけである。         | 建設業<br>木造建築工事業             |
|     | 前年より売上、利益は良いがコロナ前の水準まで届かない。物流費が高止まりしている上、円安、原材料高で商品価格が上がっており、利益水準は厳しい。                              | 卸売業<br>靴・履物卸売業             |
|     | 新型コロナウイルス感染拡大防止によるまん延防止等重点措置により客足が遠のき売上が減少している上、食品価格や光熱費等の高騰により更なる打撃を受けている。                         | 小売業<br>各種食料品小売業            |
|     | 提供する商材がモノを売る事からサービスの提供に変化し、定額制やレンタルが主流に変化する事で売上は下がる傾向にある。生業についてもどのように変化していくかが問題。                    | サービス業<br>パッケージソフトウェア業      |
| 見通し | 今後コロナ次第で売上状況は変わる。見通しが見えない状況である。   | 製造業<br>乳製品製造業(処理牛乳・乳飲料を除く) |
|     | 小麦価格、光熱費の高騰により4月からの値上げをせざるを得なくなりました。今後どうなっていくのか心配です。  | 製造業<br>パン製造業               |
|     | 仕事の引き合いは増加しているが、新規協力業者新規社員採用が新規確保が出来ず受注限界となっている。新工期法や新規ソフト導入で作業人員時間の短縮をして効果を上げたが今後は尚思案中。            | 建設業<br>一般管工事業              |
|     | 短期間で悪化するとは考えていないが、長期的（10～20年スパン）予想を考えると、業況は悪化することは現状で避けられないと考えています。                                 | サービス業<br>測量業               |
|     | コロナ禍で先が見通すのが難しい時代でありお客様ニーズの変化に対応しないといけない。コロナ禍でも基本的に忠実に行うことが重要だと思います。今の時代は横のつながりで助け合って商売するのも良いと思います。 | サービス業<br>自動車一般整備業          |

# 中小企業の景気動向について（東北）

## 1 第167回中小企業景況調査（2022年1-3月期）の中小企業の業況感

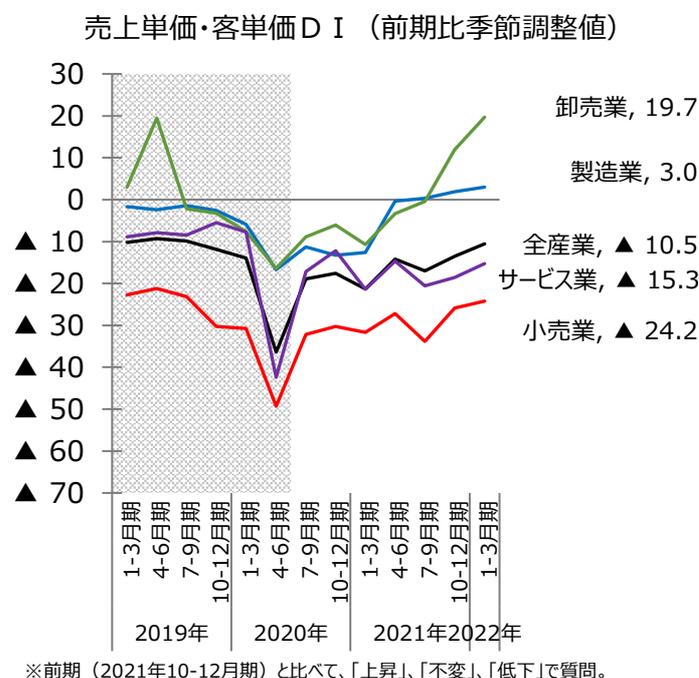
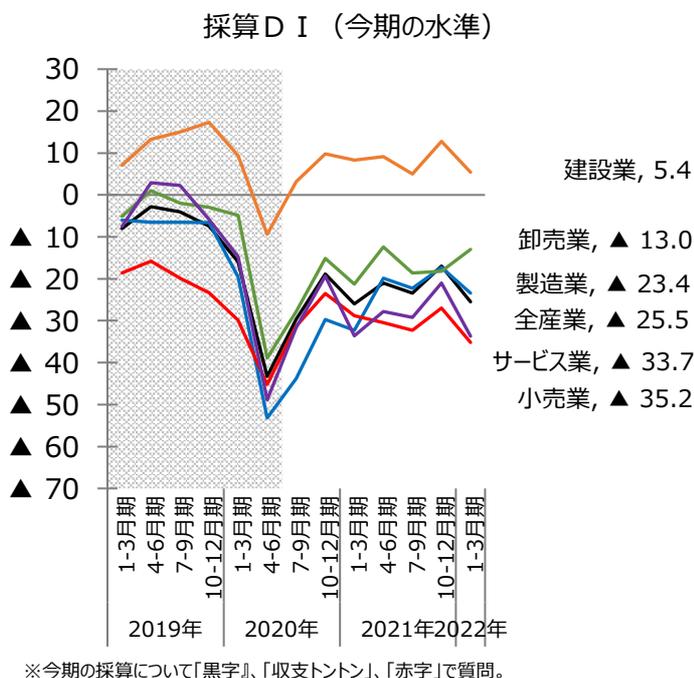
東北地域の中小企業の業況判断DI（前期比季節調整値）は、全産業で前期（2021年10-12月期）より0.7ポイント減の▲29.6と、2期ぶりに低下した。産業別に見ると、卸売業と製造業で上昇し、建設業、小売業、サービス業で低下した。来期は、建設業を除く4産業で上昇する見通しとなった。

また、業況判断DI（今期の水準）は、卸売業を除く4産業で前期より低下した。



## 2 中小企業の採算

中小企業の採算DI（今期の水準）は、全産業で前期より8.5ポイント減の▲25.5となった。産業別に見ると、卸売業を除く4産業で低下した。また、売上単価、客単価の動向について、産業別の売上単価・客単価DI（前期比季節調整値）を見ると、4産業すべてで上昇した。



<調査概要> 調査時点は2022年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数18,911、有効回答企業数18,052、有効回答率95.5%、うち、東北1,848企業

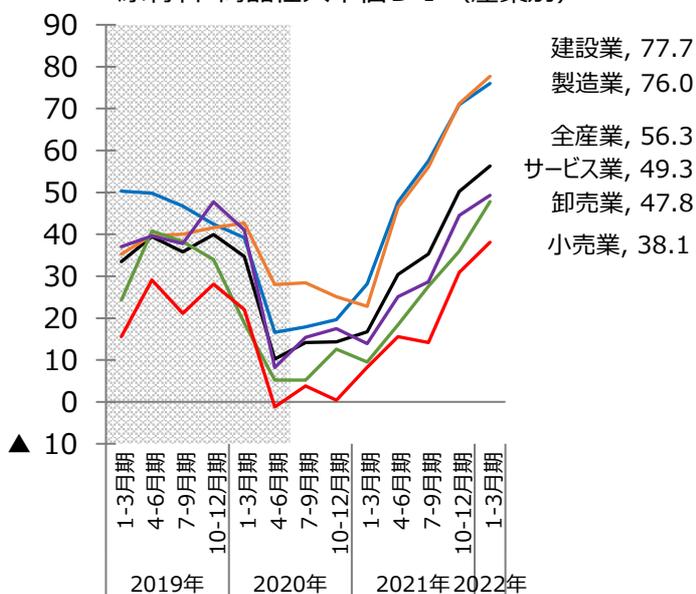
# 中小企業の景気動向について（東北）

## 3 中小企業の仕入単価の動向

中小企業の原材料・商品仕入単価DI（前年同期比）は、全産業で前期より6.1ポイント増の56.3と7期連続して上昇した。産業別に見ると、5産業すべてで上昇した。

また、産業別に見ると、製造業と建設業で1980年7-9月期の調査開始以来、2番目に高い値となった。

原材料・商品仕入単価DI（産業別）



原材料・商品仕入単価DI（産業別 上位順）

| 順位 | 製造業  |                | 建設業  |              |
|----|------|----------------|------|--------------|
|    | DI   | (時期)           | DI   | (時期)         |
| 1  | 79.8 | (2008年7-9月期)   | 78.0 | (2008年4-6月期) |
| 2  | 76.0 | (2022年1-3月期)   | 77.7 | (2022年1-3月期) |
| 3  | 70.9 | (2021年10-12月期) | 77.1 | (2008年7-9月期) |
| 4  | 70.4 | (2008年4-6月期)   | 73.0 | (1980年7-9月期) |
| 5  | 65.7 | (2008年10-12月期) | 72.1 | (2014年4-6月期) |

※前年同期（2021年1-3月期）と比べて「上昇」、「不変」、「低下」で質問。

## 4 東北の中小企業の声

| 業況判断の背景 |  | 業種    |                             |
|---------|--|-------|-----------------------------|
| 現状      | コロナが全国的に拡大し消費が停滞し売上が減少。飲酒パターンの変化やアルコール離れにより今後酒類販売業界全体の苦戦が予想される。自社商品のコンセプトを明確にし消費者の理解を得ることが重要と思われる。   | 製造業   | 清酒製造業                       |
|         | 石油高騰により、材料の単価が高値となり、建設機材トラックなどの設備投資を考えると、今までにない高値となり、安易に投資出来ない現状である。又、今だに人手不足が深刻であり、多くの受注が出来ない現状である。 | 建設業   | 土木工事業(別掲を除く)                |
|         | 供給不安により、メーカーの経営状態が悪化している。それに伴い、メーカーが直接販売を行い始めた。その為、より競争が激化しており売上の奪い合いが発生している。                        | 卸売業   | 靴・履物卸売業                     |
|         | 仕入金額の増加により売上金額も増加している。売上での状況判断であれば増加している事から好転しているように思われるが、売上は地域の相場に合わせているので利益は減少している。                | 小売業   | ガソリンスタンド                    |
|         | 一部の顧客が補助金を活用してくれたことが売上げ増加につながったが、通常時に比べれば、動きは全体的に鈍い感じがする。  | サービス業 | 受託開発ソフトウェア業                 |
| 見通し     | 昨年から続くウッドショックがまだ続く予想で、特に原材料の仕入価格の上昇が今月に入ってから異常な上昇であり、引き合いが少ない状況下では、資金繰りに苦労することが予想される。                | 製造業   | 一般製材業                       |
|         | 最近になり、ウクライナロシア問題が起きてきて、アルミ、銅などの金属が値上りしたためさらなる仕入コストの上昇が予想されるので、益々不況になっていくと思う。何とか手を打ちたいものです。           | 建設業   | 一般電気工事業                     |
|         | コロナウイルス感染拡大の影響で、業種問わず全般的な需要の落ち込みが感じられる。在宅ワーク等でOA機器等へ新たなニーズはあるものの、今後も厳しい事業展開になると見込まれる。                | 卸売業   | 他に分類されないその他の卸売業             |
|         | 震災から10年が経ち、村内の公共工事は大半が完了している。それにより工事関係者をはじめとした来客数が大きく減少してしまい、月に3~4万人の減少が続いている。今後の見通しがたないのが現状である。     | 小売業   | コンビニエンスストア(飲食料品を中心とするものに限る) |
|         | ガソリンの高値の影響で光熱費の上昇食材が次々と値上げになり春からまた更なるコスト上昇が予想される仕入れ値が上がれば売価にも響いてくるので値上げによる顧客離れが心配なところ。               | サービス業 | 中華料理店                       |

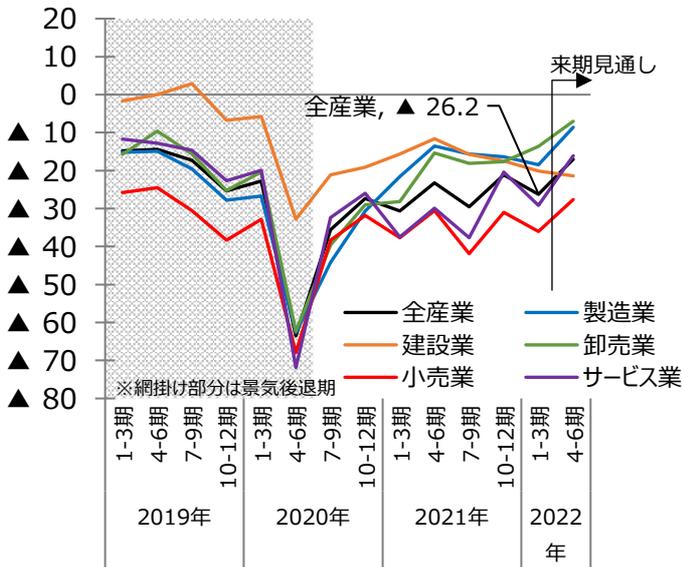
# 中小企業の景気動向について（関東）

## 1 第167回中小企業景況調査（2022年1-3月期）の中小企業の業況感

関東地域の中小企業の業況判断DI（前期比季節調整値、「好転」-「悪化」）は、全産業で前期（2021年10-12月期）より5.1ポイント減の▲26.2と、2期ぶりに低下した。産業別に見ると、卸売業で上昇し、サービス業、小売業、建設業、製造業で低下した。また、来期は、建設業を除き4産業で上昇する見通しとなった。

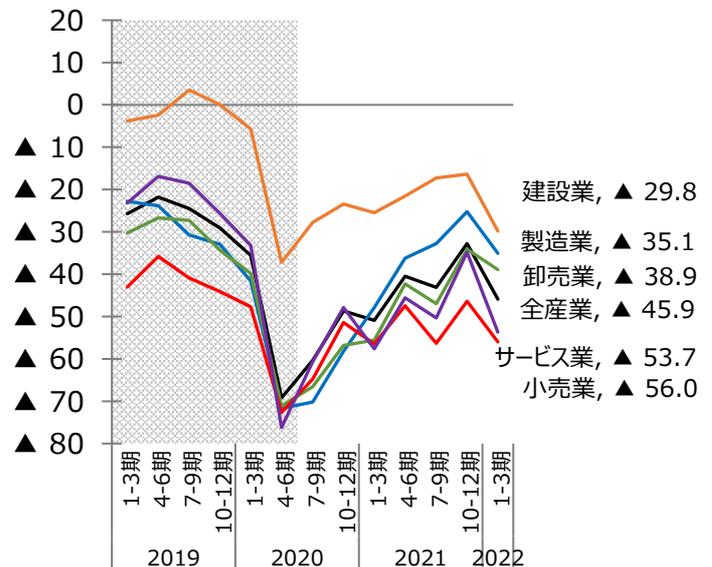
一方、業況判断DI（今期の水準、「良い」-「悪い」）は、全産業で前期より13.1ポイント減の▲45.9となった。

業況判断DI（前期比季節調整値）



※前期（2021年10-12月期）と比べて、「好転」、「不変」、「悪化」で質問。

業況判断DI（今期の水準）

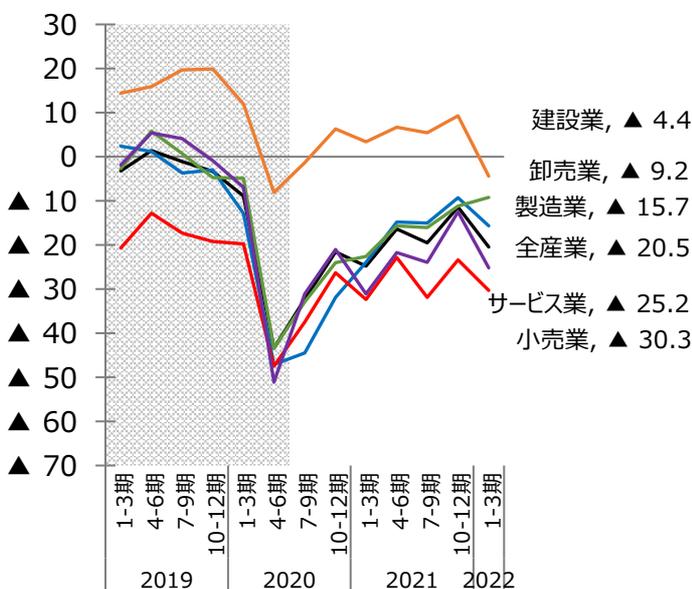


※今期の業況について「良い」、「ふつう」、「悪い」で質問。

## 2 中小企業の採算

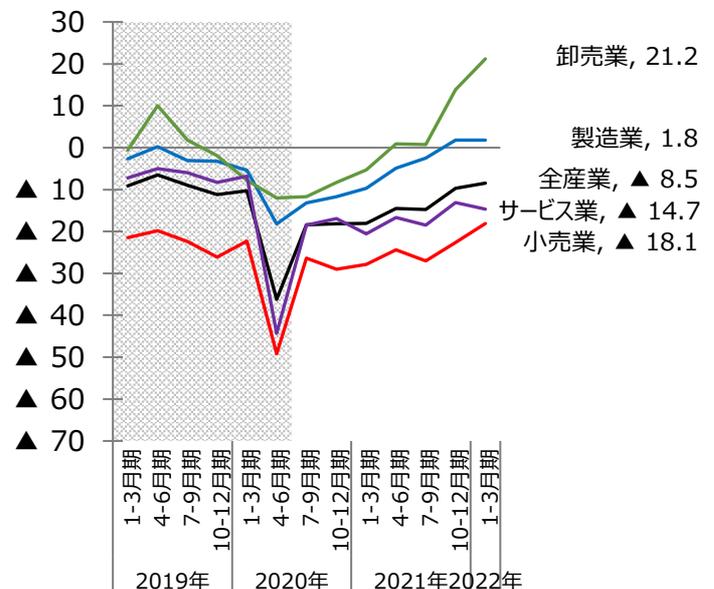
中小企業の採算DI（今期の水準、「黒字」-「赤字」）は、全産業で前期より9.1ポイント減の▲20.5となった。産業別に見ると、卸売業で上昇し、サービス業、小売業、製造業で低下した。

採算DI（今期の水準）



※今期の採算について「黒字」、「収支トントン」、「赤字」で質問。

売上単価・客単価DI（前期比季節調整値）



※前期（2021年10-12月期）と比べて、「上昇」、「不変」、「低下」で質問。

<調査概要> 調査時点は2022年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数18,911、有効回答企業数18,052、有効回答率95.5%、うち、関東4,902企業

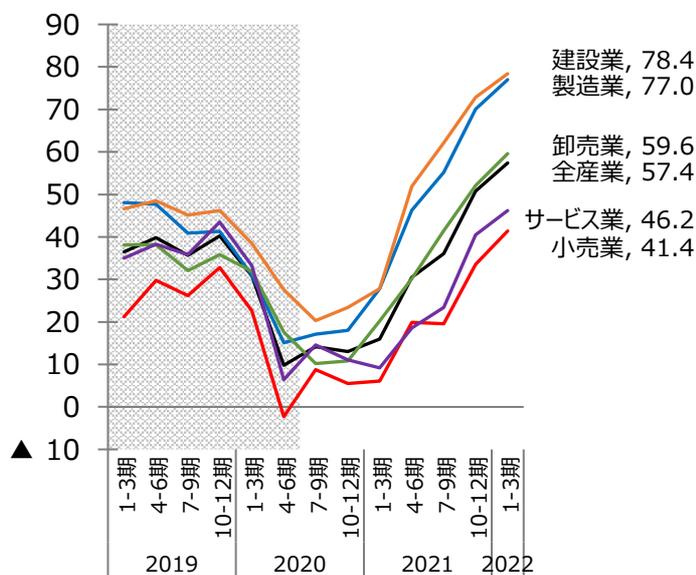
# 中小企業の景気動向について（関東）

## 3 中小企業の仕入単価の動向

中小企業の原材料・商品仕入単価DI（前年同期比、「上昇」-「低下」）は、全産業で前期より6.6ポイント増の57.4と5期連続して上昇した。産業別に見ると、5産業すべてで上昇した。

また、産業別に見ると、製造業と建設業で1980年7-9月期の調査開始以来、2番目に、卸売業で3番目に高い値となった。

原材料・商品仕入単価DI（産業別）



原材料・商品仕入単価DI（産業別 上位順）

| 順位 | 製造業  |                | 建設業  |                |
|----|------|----------------|------|----------------|
|    | DI   | (時期)           | DI   | (時期)           |
| 1  | 78.8 | (2008年7-9月期)   | 78.9 | (2008年7-9月期)   |
| 2  | 77.0 | (2022年1-3月期)   | 78.4 | (2022年1-3月期)   |
| 3  | 76.8 | (2008年4-6月期)   | 77.5 | (2008年4-6月期)   |
| 4  | 70.1 | (2021年10-12月期) | 77.0 | (1980年7-9月期)   |
| 5  | 69.4 | (2008年1-3月期)   | 72.8 | (2021年10-12月期) |

| 順位 | 卸売業  |              |
|----|------|--------------|
|    | DI   | (時期)         |
| 1  | 67.5 | (1980年7-9月期) |
| 2  | 60.7 | (2008年4-6月期) |
| 3  | 59.6 | (2022年1-3月期) |
| 4  | 58.8 | (2008年7-9月期) |
| 5  | 56.3 | (1941年4-6月期) |

※前年同期（2021年1-3月期）と比べて「上昇」、「不変」、「低下」で質問。

## 4 関東の中小企業の声

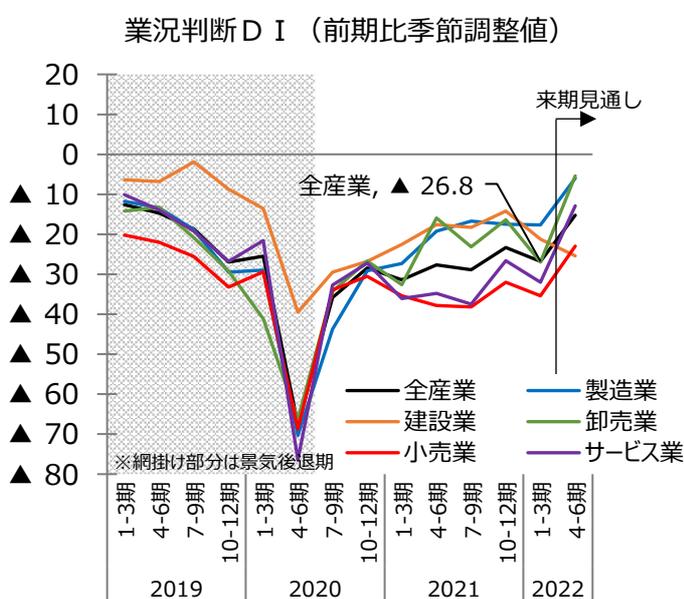
|     | 業況判断の背景   | 業種                             |
|-----|---|--------------------------------|
| 現状  | 受注は活況であるが、人員不足により生産高、売上高が上がらない。材料の大幅な値上りは、売価に全て転嫁出来ないため業績に影響がある。                                  | 製造業<br>電子回路基板製造業               |
|     | 公共工事が見通せない。来期については大型工事があるが、それまでの間の工事が少ない。民間工事については、大型の工事は単価が低すぎる。個人のお客様を大事にしていきたい。                | 建設業<br>木造建築工事業                 |
|     | 仕入単価の上昇分を販売単価に上乗せできていたが4月以降は難しい。売上が高齢化等で先細りになって行くのが心配です。  | 卸売業<br>木材・竹材卸売業                |
|     | お米と石油の販売を行っているが原油価格がかなり高騰している。そのため、当地域では買控え等は少なく例年並みの客数を維持しているので売上額は前年より増えてはいるが、利益は落ちている。         | 小売業<br>米穀類小売業                  |
|     | 新型コロナの影響を含め、海外からの製品輸入見通しが立たない、取引先のIT投資時期変更などが重なり、厳しい状況である。  | サービス業<br>受託開発ソフトウェア業           |
| 見通し | 受注先が製造しきれない分の売上が堅調であり、向こう2ヶ月先の受注まで確定している状況が続いている。今後も、高い技術力が評価されるとともに国内回帰の動きも相まって安定した受注傾向は続くと思われる。 | 製造業<br>他に分類されないはん用機械・装置製造業     |
|     | 官公需要の見通しがつかない。今期も減少ざみでしたが、来期は今期よりも発注量が減少するとの事なので、業況悪化が予想される。                                      | 建設業<br>一般土木建築工事業               |
|     | 現在も続いている半導体を含めた物不足による受発注の異常、今後更なる物価上昇により工事の発注の見通しがたたない。物が無い中での対応が非常に難しい。                          | 卸売業<br>電気機械器具卸売業（家庭用電気機械器具を除く） |
|     | 世界的な原油価格の上昇によりLPガス仕入価格も想定外に高騰しており、小売価格への転嫁が十分に出来ていない事が業況悪化の最大の要因となっている。原油価格の高止まりはしばらく長期化が予想される。   | 小売業<br>燃料小売業（ガソリンスタンドを除く）      |
|     | コロナや原油高、ウクライナ情勢等不安定要素が多く、先行き不透明感が強いせいか、全業種ともに問い合わせが低下している印象がある。                                   | サービス業<br>その他の情報処理・提供サービス業      |

# 中小企業の景気動向について（中部）

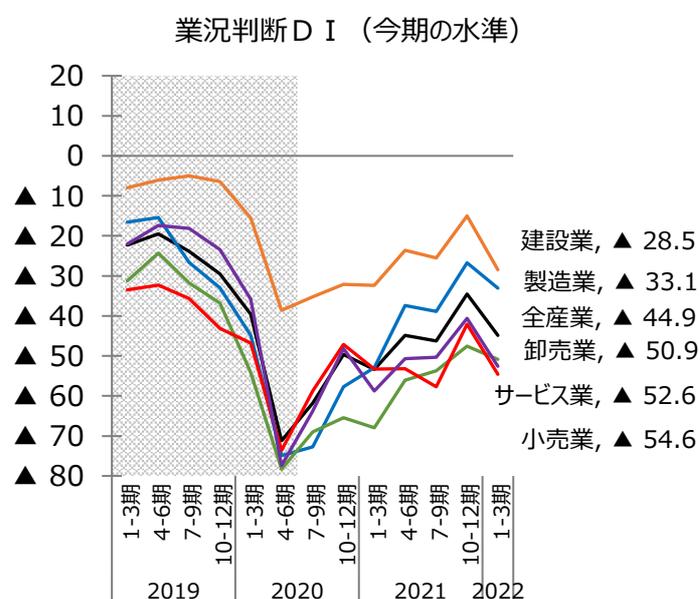
## 1 第167回中小企業景況調査（2022年1-3月期）の中小企業の業況感

中小企業の業況判断DI（前期比季節調整値、「好転」-「悪化」）は、全産業で前期（2021年10-12月期）より3.5ポイント減の▲26.8と、2期ぶりに低下した。産業別に見ると、卸売業、建設業、サービス業、小売業、製造業の5産業すべてで低下した。また、来期は、建設業を除く4産業で上昇する見通しとなった。

一方、業況判断DI（今期の水準、「良い」-「悪い」）は、全産業で前期より10.4ポイント減の▲44.9となった。



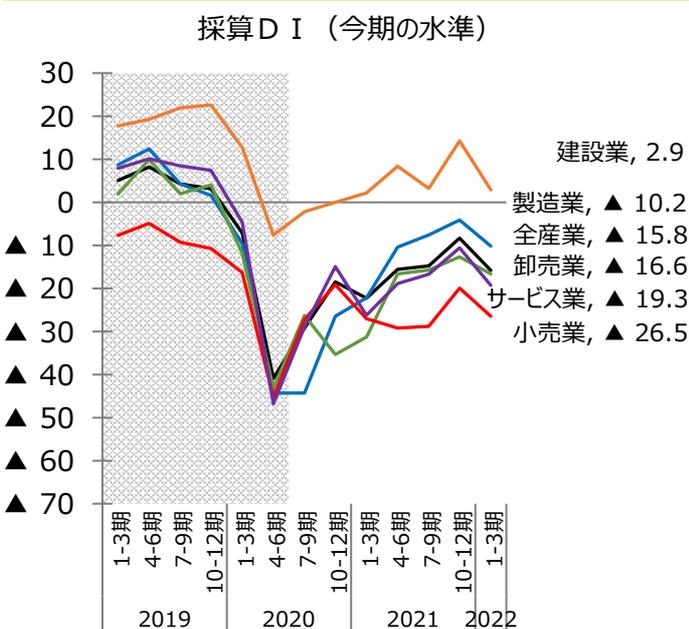
※前期（2021年10-12月期）と比べて、「好転」、「不変」、「悪化」で質問。



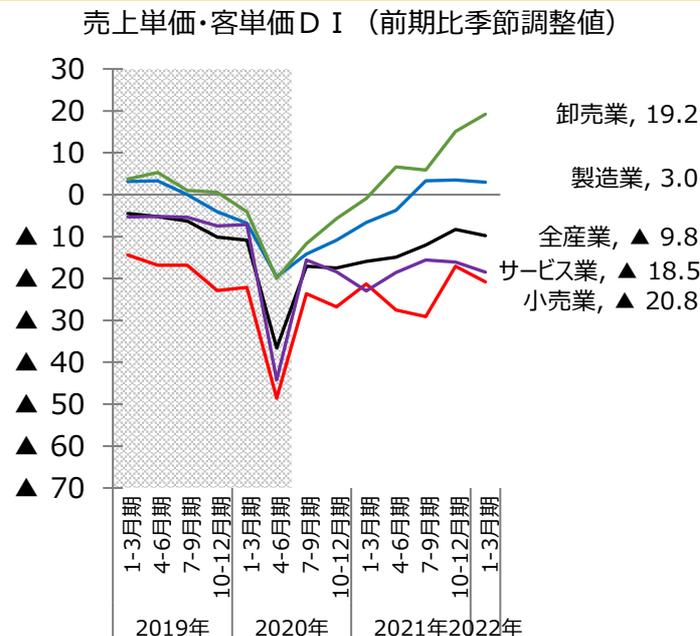
※今期の業況について「良い」、「ふつう」、「悪い」で質問。

## 2 中小企業の採算

中小企業の採算DI（今期の水準、「黒字」-「赤字」）は、全産業で前期より7.5ポイント減の▲15.8となった。産業別に見ると、5産業すべてで低下した。また、売上単価、客単価の動向について、産業別の売上単価・客単価DI（前期比季節調整値）を見ると、卸売業で上昇し、小売業、サービス業、製造業で低下した。



※今期の採算について「黒字」、「収支トントン」、「赤字」で質問。



<調査概要> 調査時点は2022年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数18,911、有効回答企業数18,052、有効回答率95.5%、うち、富山県、石川県を含む中部2,292企業

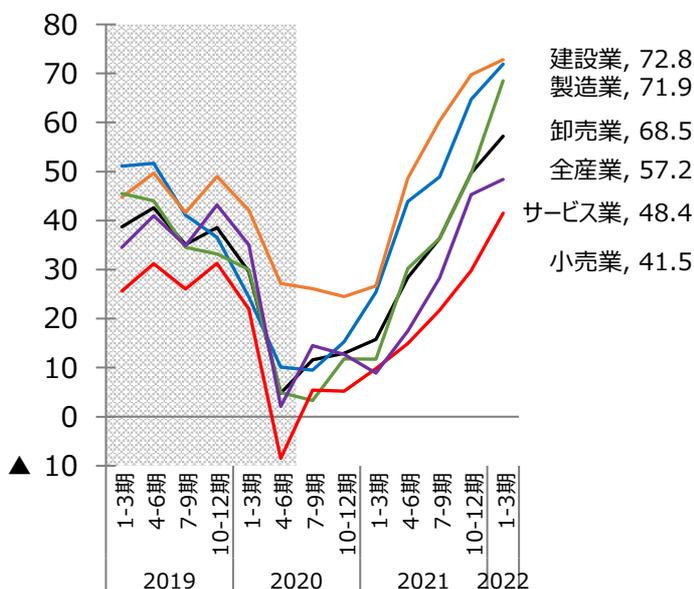
# 中小企業の景気動向について（中部）

## 3 中小企業の仕入単価の動向

中小企業の原材料・商品仕入単価DI（前年同期比、「上昇」-「低下」）は、全産業で前期より7.5ポイント増の57.2と7期連続して上昇した。産業別に見ると、すべての産業で上昇した。

また、産業別に見ると、建設業で1980年7-9月期の調査開始以来、3番目に高い値となり、製造業、卸売業、小売業で4番目に高い値となった。

原材料・商品仕入単価DI（産業別）



原材料・商品仕入単価DI（産業別 上位順）

| 順位 | 製造業  |              | 建設業  |                |
|----|------|--------------|------|----------------|
|    | DI   | (時期)         | DI   | (時期)           |
| 1  | 79.9 | (2008年7-9月期) | 78.9 | (2008年7-9月期)   |
| 2  | 77.6 | (2008年4-6月期) | 77.7 | (2008年4-6月期)   |
| 3  | 72.1 | (2008年1-3月期) | 72.8 | (2022年1-3月期)   |
| 4  | 71.9 | (2022年1-3月期) | 71.2 | (1980年7-9月期)   |
| 5  | 68.0 | (1980年7-9月期) | 69.7 | (2021年10-12月期) |

| 順位 | 卸売業  |              | 小売業  |                |
|----|------|--------------|------|----------------|
|    | DI   | (時期)         | DI   | (時期)           |
| 1  | 79.0 | (1980年7-9月期) | 61.5 | (1980年7-9月期)   |
| 2  | 74.6 | (2008年7-9月期) | 60.7 | (1980年10-12月期) |
| 3  | 72.1 | (2008年4-6月期) | 44.5 | (1981年4-6月期)   |
| 4  | 68.5 | (2022年1-3月期) | 41.5 | (2022年1-3月期)   |
| 5  | 64.3 | (2008年1-3月期) | 41.4 | (1981年1-3月期)   |

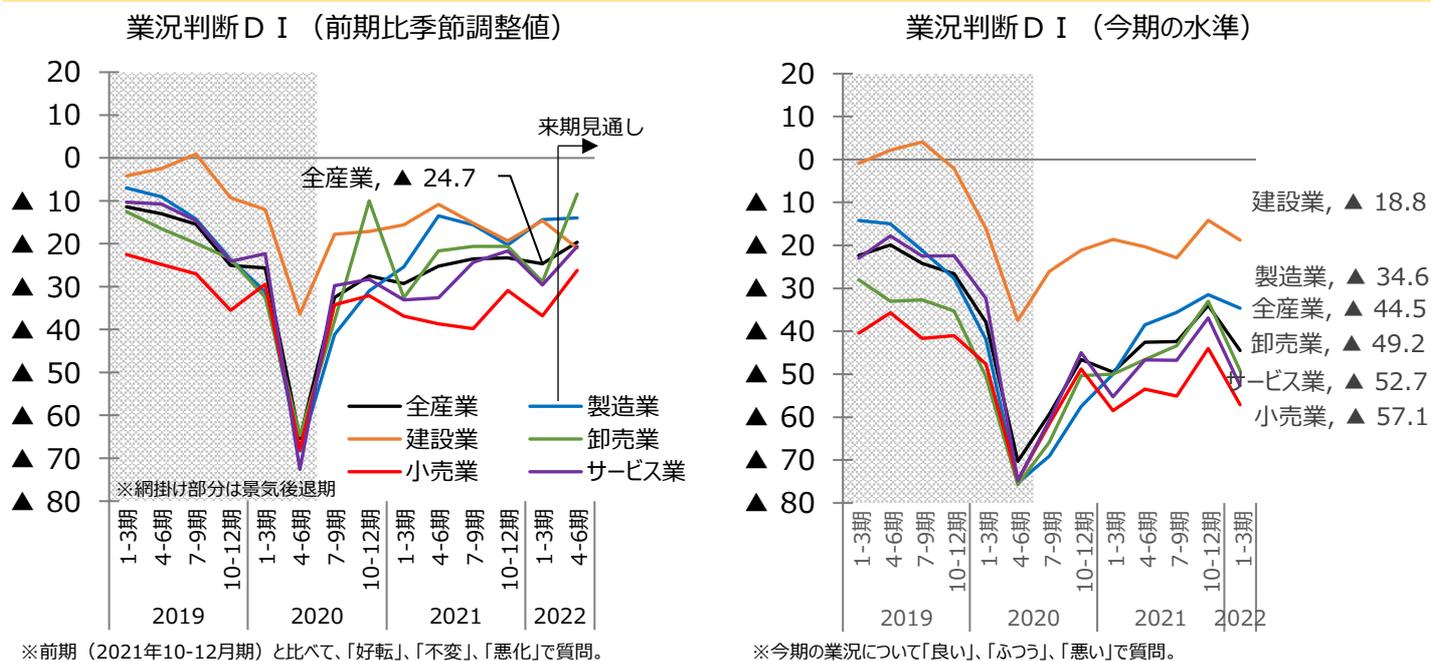
## 4 中部の中小企業の声

|     | 業況判断の背景   | 業種                                     |
|-----|---|--|
| 現状  | 前年と比べると医療関係をはじめ各業種から受注、引合いが増え新年度に期待したい。ただし稼ぎ頭である半導体装置関連は部品不足から計画が先延ばしとなっている。コロナの濃厚接触者が増え操業に支障が出ている。 | 製造業<br>他に分類されない生産用機械・同部分品製造業           |
|     | 個人の外構工事の注文が増えたので、前年度より売上が上がったが、材料費が高騰の為、採算はそこまで上がりません。  | 建設業<br>左官工事業                           |
|     | 昨年同様、国内低調、輸出好調、但し、コンテナ確保難で、出荷が早く進まない。   | 卸売業<br>陶磁器・ガラス器卸売業                     |
|     | コロナ禍のため、人々が外出する機会が増えたり、マスク生活も続くため、本来のアクセサリ―ばなれは離れたままの人もある。新規顧客の獲得は難しいままなので今年はネット販売も力を入れていきたい。       | 小売業<br>洋品雑貨・小間物小売業                     |
|     | コロナが拡大すると、予約のキャンセルが増える。サービス提供上の消毒、清掃コストや時間かかる。消耗品や光熱費などが上昇して負担がかかっている。                              | サービス業<br>リラクゼーション業（手技を用いるもの）           |
| 見通し | 今のところ受注数に大幅な変化はありません。しかし、人手不足による生産コストの上昇に加え、生産数量の減少が予想されます。コロナ関連の助成金等がなくなった時の状況を心配しています。            | 製造業<br>利器工器具・手道具製造業（やすり、のこぎり、食卓用刃物を除く） |
|     | 受注は順調に推移しているが、資材価格の高騰及び資材の供給が非常に不安定な状態である。今後は資材不足の納期遅れの懸念もあります。そうすると、資金繰りにも少なからず影響が出る事が懸念されます。      | 建設業<br>木造建築工事業                         |
|     | コロナの動向がまだ終息していないので今後需要期迄に終息方向で行くかが不安要因である。又海外向け引合は増加しているがコンテナ不足に依る物流動向も不安要素である。                     | 卸売業<br>陶磁器・ガラス器卸売業                     |
|     | コロナによる飲食店等の販売の減少により売上の低下や最近の消費者ニーズの変化による売上の低下や大型店、中型店の進出による競争の激化による売上の低下で今後店舗の維持が難しくなっている。          | 小売業<br>米穀類小売業                          |
|     | 3月4月の予約状況が鈍い。GWあたり以降は少しずつ増えて来ている。コロナ融資をたくさん受けた為、借入金が多額になり今後が心配。                                     | サービス業<br>旅館、ホテル                        |

# 中小企業の景気動向について（近畿）

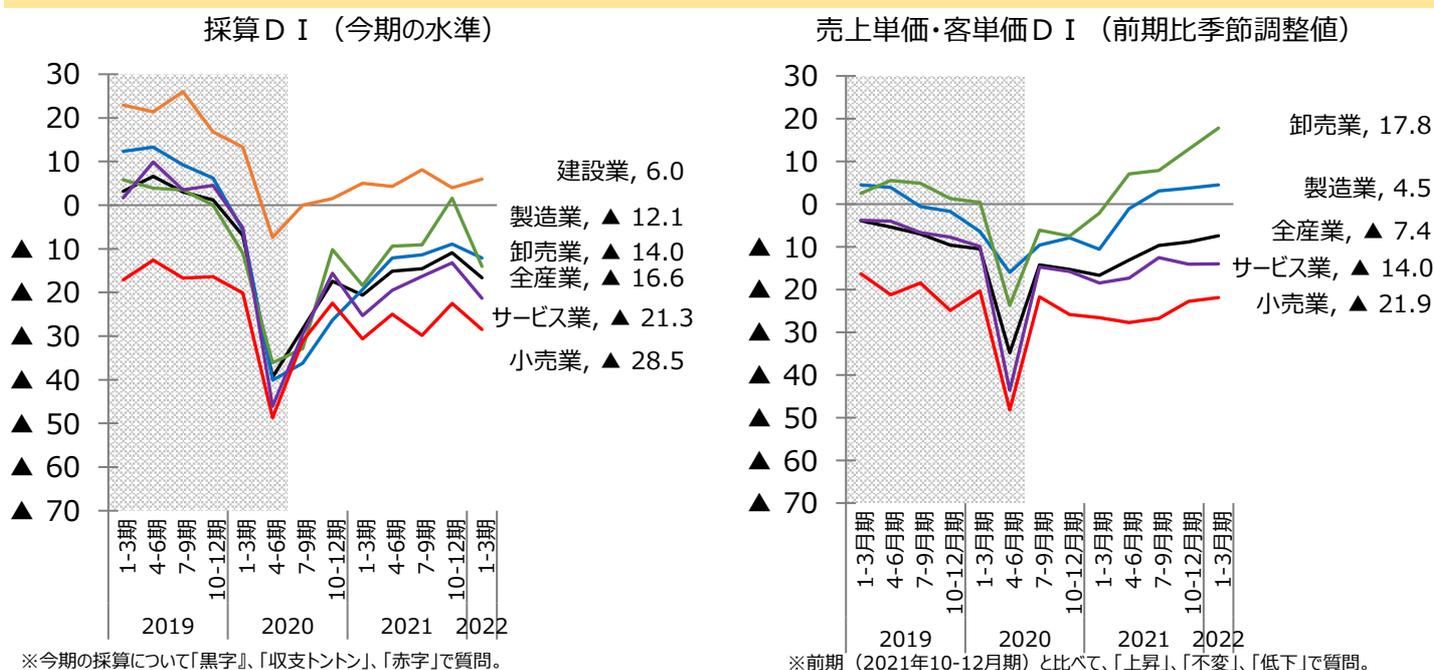
## 1 第167回中小企業景況調査（2022年1-3月期）の中小企業の業況感

近畿地域の中小企業の業況判断DI（前期比季節調整値、「好転」-「悪化」）は、全産業で前期（2021年10-12月期）より1.4ポイント減の▲24.7と、4期ぶりに低下した。産業別に見ると、製造業と建設業で上昇し、卸売業、サービス業、小売業で低下した。来期は、建設業を除く4産業で上昇する見通しとなった。また、業況判断DI（今期の水準、「良い」-「悪い」）は、5産業すべてで低下した。



## 2 中小企業の採算

中小企業の採算DI（今期の水準、「黒字」-「赤字」）は、全産業で前期より5.7ポイント減の▲16.6となった。産業別に見ると、建設業を除く4産業で低下した。また、売上単価、客単価の動向について、産業別の売上単価・客単価DI（前期比季節調整値）を見ると、4産業すべてで上昇した。



<調査概要> 調査時点は2022年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数18,911、有効回答企業数18,052、有効回答率95.5%、うち、福井県を含む近畿2,548企業

# 中小企業の景気動向について（近畿）

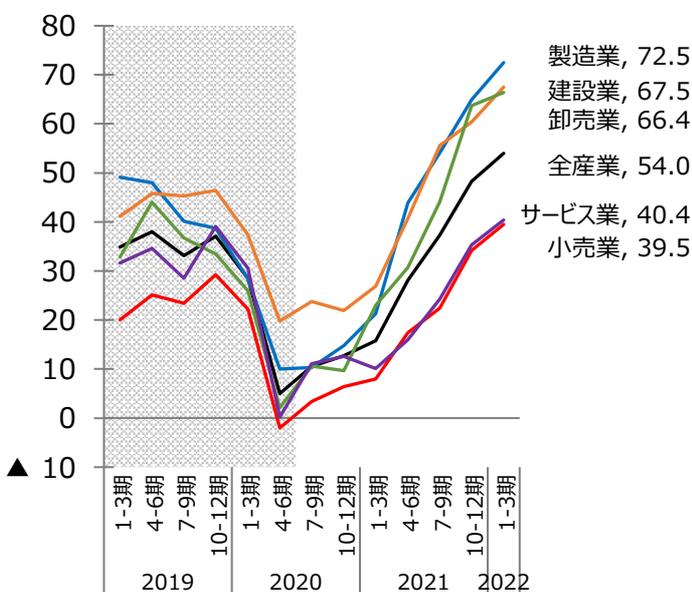
## 3 中小企業の仕入単価の動向

中小企業の原材料・商品仕入単価DI（前年同期比、「上昇」-「低下」）は、全産業で前期より5.7ポイント増の54.0と7期連続して上昇した。産業別に見ると、5産業すべてで上昇した。

また、卸売業で1980年7-9月期の調査開始以来、最も高い値となり、製造業で3番目、建設業で5番目に高い値となった。

原材料・商品仕入単価DI（産業別）

原材料・商品仕入単価DI（産業別 上位順）



| 順位 | 製造業  |              | 建設業  |              |
|----|------|--------------|------|--------------|
|    | DI   | (時期)         | DI   | (時期)         |
| 1  | 76.6 | (2008年4-6月期) | 77.0 | (2008年7-9月期) |
| 2  | 74.5 | (2008年7-9月期) | 73.4 | (1980年7-9月期) |
| 3  | 72.5 | (2022年1-3月期) | 73.0 | (2008年4-6月期) |
| 4  | 70.7 | (2008年1-3月期) | 67.9 | (2008年1-3月期) |
| 5  | 67.3 | (1980年7-9月期) | 67.5 | (2022年1-3月期) |

| 順位 | 卸売業  |                |
|----|------|----------------|
|    | DI   | (時期)           |
| 1  | 66.4 | (2022年1-3月期)   |
| 2  | 63.7 | (2021年10-12月期) |
| 3  | 62.0 | (2008年7-9月期)   |
| 4  | 58.8 | (2008年4-6月期)   |
| 5  | 57.9 | (1980年7-9月期)   |

※前年同期（2021年1-3月期）と比べて「上昇」、「不変」、「低下」で質問。

## 4 近畿の中小企業の声

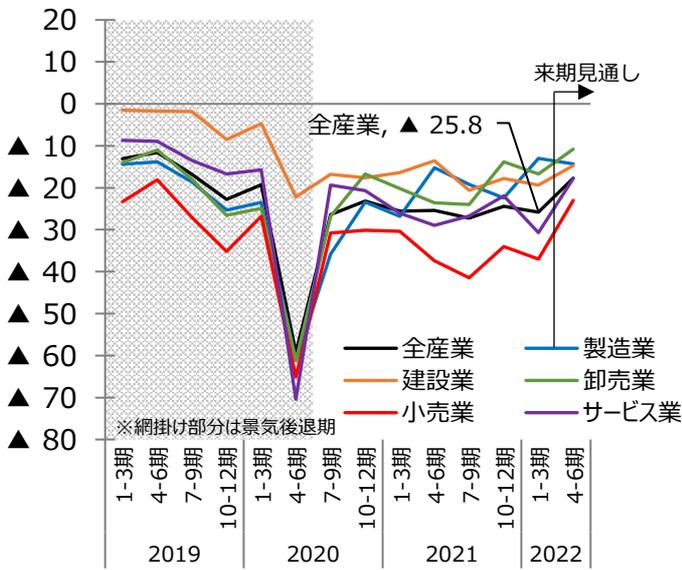
| 業況判断の背景   |   | 業種              |                                      |
|---|---|-----------------|--------------------------------------|
| 現状  | 昨年末からの原材料価格の上昇分を回収できていない状況が続いている。春頃に全体で値上げになるけれど我慢が引き続き必要。従業員の教育の難しさと労力軽減の為機械導入を急ぎたい。                           | 製造業             | 紙器製造業                                |
|   | 住宅設備機器に半導体が使用されている為、納品が滞っている。独自の仕入れルートでなんとか調達しているが、価格も高騰し、利益率が心配。決算期で需要が増えているだけに、機会損失が残念。                       | 建設業             | 建築工事業(木造建築工事業を除く)                    |
|   | コロナ禍の消費スタイルの変化により、当社の業況は堅調に推移しております。また、関係先企業の設備投資も復調し、前年度に不振であった工業系部門も復調しております。アフターコロナを見据えた新規業態へのチャレンジが今後の課題です。 | 卸売業             | その他の各種商品卸売業                          |
|   | 昨年夏頃から釣具全般の納期が半年待ちとなっており高額品の販売が大きく落ち込んでいる。メーカー在庫も不人気品ばかりで店頭商品も品薄になっており大変厳しい状況が続いている。                            | 小売業             | がん具・娯楽用品小売業                          |
|   | 新型コロナウイルスが広がる中、なかなかサロンに出向いて施術を受けたいと思うニーズが減ってきている様に感じます。ネットでの買い物も増えてきている中、サロン営業をむずかしく感じます。                       | サービス業           | エステティック業                             |
| 見通し   | 半導体不足に加えて、オミクロン型の感染拡大により、各自動車メーカーの工場停止が相次ぎ、まだ暫くは減産傾向が続くと予測される。  | 製造業             | 金属工作機械用・金属加工機械用部品・附属品製造業（機械工具、金型を除く） |
|   | コロナ禍の沈静化が見られた昨年と様変わり感染者は急増し社会全体の不安感と景況悪化への不安感が増している。又、利上げムードと原油、船便不足が先行き不安感をさらに増している事が背景にあると思う。                 | 建設業             | タイル工事業                               |
|   | 全体としては回復途上にあると思うが、今後も新型コロナウイルスの感染状況により、大きく左右される展開が続く。原材料や商品の不足は続いており、インフレの加速や地政学リスクなども懸念され、今後の見通しは不透明。          | 卸売業             | 電気機械器具卸売業（家庭用電気機械器具を除く）              |
|   | 仕入単価が上昇今年も2回に分けて上がると通知が来ております。今後も仕入価格が少しずつ上がる状況において大変な時に入ってきていると感じています。   | 小売業             | 花・植木小売業                              |
| 人件費及び人件費以外の経費の増加が収入を圧迫している傾向にある。設備投資を行い作業の効率化を図りたいところだが、先行きが不透明であるため現状維持の状態である。 | サービス業   | 他に分類されない専門サービス業 |                                      |

# 中小企業の景気動向について（中国）

## 1 第167回中小企業景況調査（2022年1-3月期）の中小企業の業況感

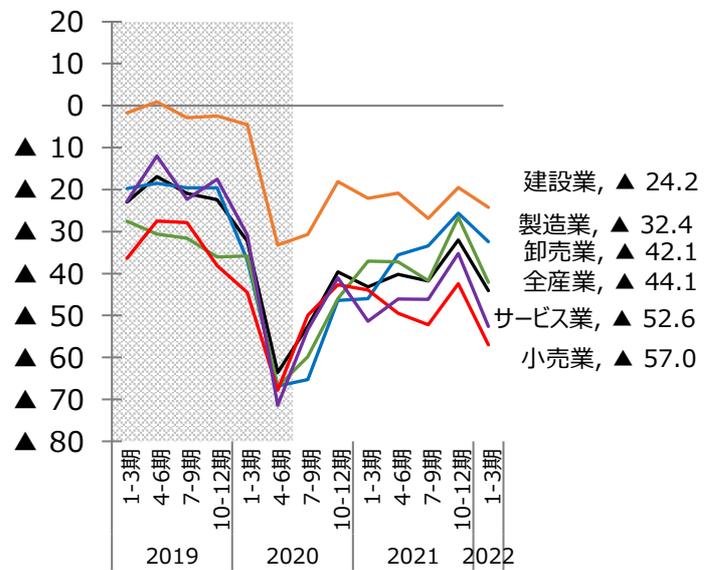
中国地域の中小企業の業況判断DI（前期比季節調整値、「好転」-「悪化」）は、全産業で前期（2021年10-12月期）より1.4ポイント減の▲25.8と、2期ぶりに低下した。産業別に見ると、製造業で上昇し、サービス業、小売業、卸売業、建設業で低下した。来期は、製造業を除く4産業で上昇する見通しとなった。また、業況判断DI（今期の水準、「良い」-「悪い」）は、5産業すべてで低下した。

業況判断DI（前期比季節調整値）



※前期（2021年10-12月期）と比べて、「好転」、「不変」、「悪化」で質問。

業況判断DI（今期の水準）

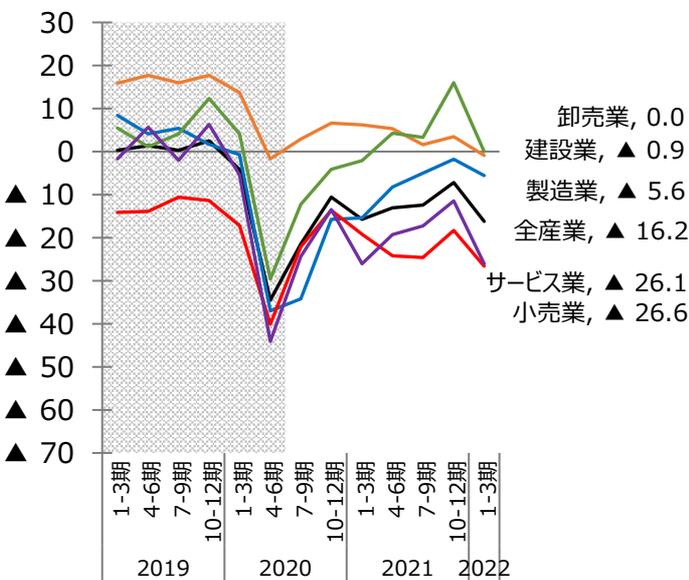


※今期の業況について「良い」、「ふつう」、「悪い」で質問。

## 2 中小企業の採算

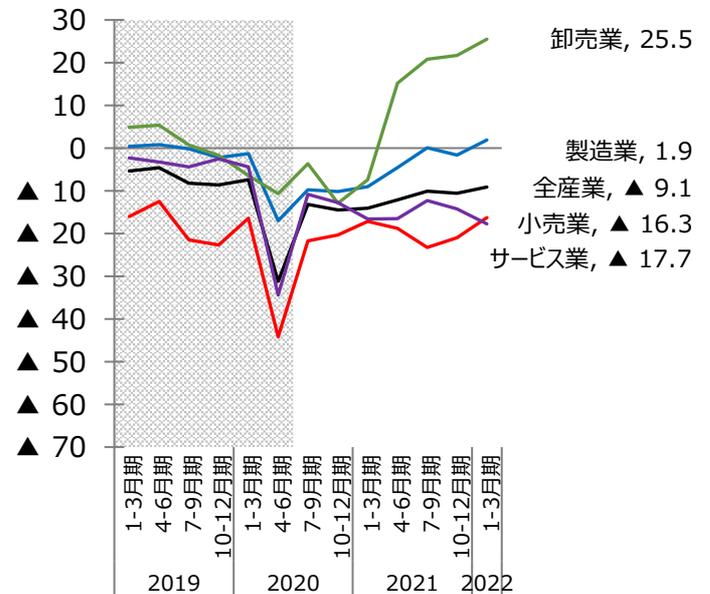
中小企業の採算DI（今期の水準、「黒字」-「赤字」）は、全産業で前期より9.0ポイント減の▲16.2となった。産業別に見ると、5産業すべてで低下した。また、売上単価、客単価の動向について、産業別の売上単価・客単価DI（前期比季節調整値）を見ると、サービス業を除く3産業で上昇した。

採算DI（今期の水準）



※今期の採算について「黒字」、「収支トントン」、「赤字」で質問。

売上単価・客単価DI（前期比季節調整値）



※前期（2021年10-12月期）と比べて、「上昇」、「不変」、「低下」で質問。

<調査概要> 調査時点は2022年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

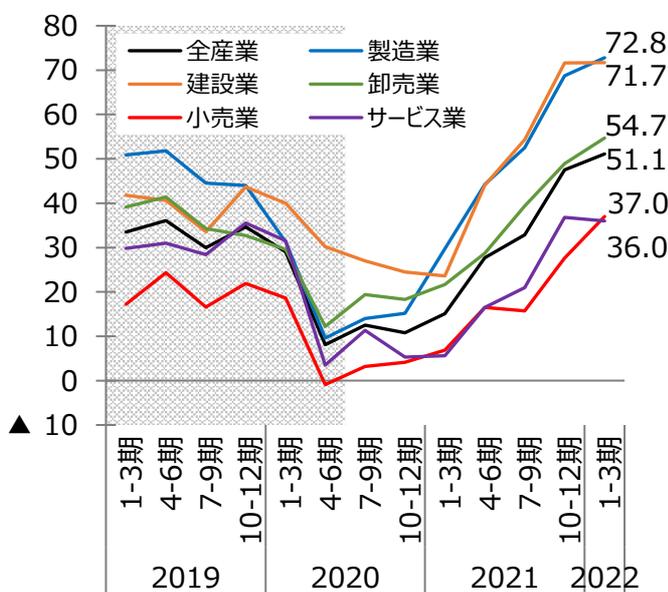
今期の調査対象企業数18,911、有効回答企業数18,052、有効回答率95.5%、うち、中国1,692企業

# 中小企業の景気動向について（中国）

## 3 中小企業の仕入単価の動向

中小企業の原材料・商品仕入単価DI（前年同期比、「上昇」-「低下」）は、全産業で前期より3.6ポイント増の51.1と5期連続して上昇した。産業別に見ると、サービス業を除く4産業で上昇した。また、製造業で1980年7-9月期の調査開始以来、3番目に高い値となり、建設業で5番目に高い値となった。

原材料・商品仕入単価DI（産業別）



原材料・商品仕入単価DI（産業別 上位順）

| 順位 | 製造業  |                | 建設業  |                |
|----|------|----------------|------|----------------|
|    | DI   | (時期)           | DI   | (時期)           |
| 1  | 77.6 | (2008年4-6月期)   | 79.7 | (1980年7-9月期)   |
| 2  | 76.9 | (2008年7-9月期)   | 77.0 | (2008年7-9月期)   |
| 3  | 72.8 | (2022年1-3月期)   | 72.2 | (2008年4-6月期)   |
| 4  | 69.9 | (1980年7-9月期)   | 71.8 | (1980年10-12月期) |
| 5  | 68.7 | (2021年10-12月期) | 71.7 | (2022年1-3月期)   |

※前年同期（2021年1-3月期）と比べて「上昇」、「不変」、「低下」で質問。

## 4 中国の中小企業の声

|     | 業況判断の背景   | 業種                             |
|-----|---|--------------------------------|
| 現状  | コロナ禍の中で、新製品の開発を続けて来てようやく目標が見えかけたが世界情勢が変化しすぎて非常に将来に不安を感じてストレスである。  | 製造業<br>しょう油・食用アミノ酸製造業          |
|     | 材料代の高騰によって、単価が下がり、実質の売上げは、下がっている。遠くの現場へも行かないといけないため、ガソリン代などもかかってしまう。                                    | 建設業<br>鉄筋工事業                   |
|     | 一部商品の値上げがあり、そのまま価格に転換出来るかが不安。商品も今だに入荷が困難なものがあり、いつ改善されるか、まだまだ安定して物が入って来ない状況が続いている。                       | 卸売業<br>事務用機械器具卸売業              |
|     | 新型コロナ第6波の影響で移動が制限され燃料の消費低迷が顕著であった。さらに世界的原油価格高騰により、燃料の値上がりに歯止めが掛からず、消費者の値段の安い他地域への流出も見られる。               | 小売業<br>ガソリンスタンド                |
|     | カゴの値段が、非常に高く、年末年始、宿泊費を上げざるをえなかった。宿泊費を上げて利益はあまり上がらなかったと思う。2月は、オミクロンだけではなく、積雪により、客足が少なくなる。                | サービス業<br>旅館、ホテル                |
| 見通し | ベテラン社員退職や設備老朽化で生産能力は低下し、新規受注には消極的だ。更に材料値上では顧客と交渉が折り合わず、加工費を圧迫している。今後も物価や最低賃金の上昇を理由にたゆまず地道な交渉を続けていく。     | 製造業<br>他に分類されない生産用機械・同部分品製造業   |
|     | 資材の値上りを各メーカーより通達されています。設計にどれだけ反映されるのか、又、令和4年度内で更なる値上りが行なわれるのか、自社施工費に係る材料費のウエイトが大きく今後の資材単価変動が気になります。     | 建設業<br>舗装工事業                   |
|     | 半導体、素材不足による納期遅延は更に悪化し、主力製品の供給に大きく影響している。F A 事業は製造業の設備投資増加により受注は高水準であるが、今後、米中・欧州等の世界経済の動向により大きく左右されると予想。 | 卸売業<br>電気機械器具卸売業（家庭用電気機械器具を除く） |
|     | ネット通販などが主流になってきているので、私どもの店は今後売上は減少していくと思います。  | 小売業<br>紙・文房具小売業                |
|     | 今後の内航海運業界の見通しが不明な点が多いことと、請負不足であることから、新たな設備投資はむずかしい。人手不足は今後も悪化してくることが予想されるため、新たな技術やシステムの導入が求められる。        | サービス業<br>沿海貨物海運業               |

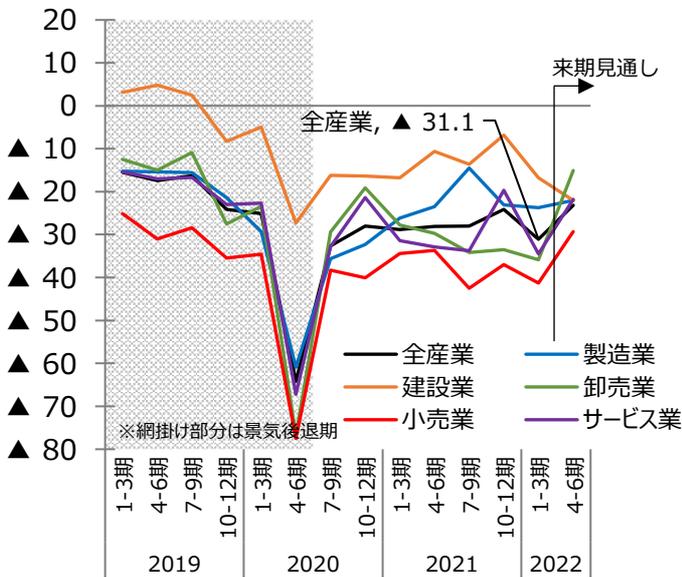
# 中小企業の景気動向について（四国）

## 1 第167回中小企業景況調査（2022年1-3月期）の中小企業の業況感

四国地域の中小企業の業況判断DI（前期比季節調整値、「好転」-「悪化」）は、全産業で前期（2021年10-12月期）より7.0ポイント減の▲31.1と、4期ぶりに低下した。産業別に見ると、5産業すべてで低下した。来期は、建設業を除く4産業で上昇する見通しとなった。

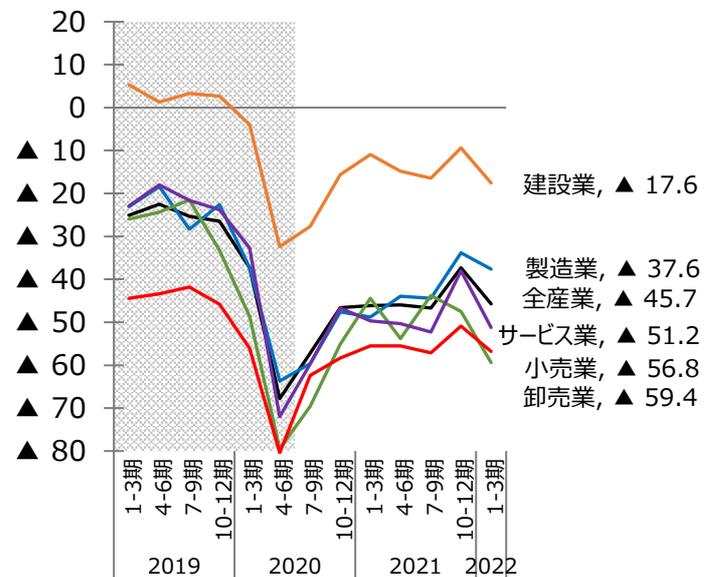
また、業況判断DI（今期の水準、「良い」-「悪い」）は、5産業すべてで低下した。

業況判断DI（前期比季節調整値）



※前期（2021年10-12月期）と比べて、「好転」、「不変」、「悪化」で質問。

業況判断DI（今期の水準）

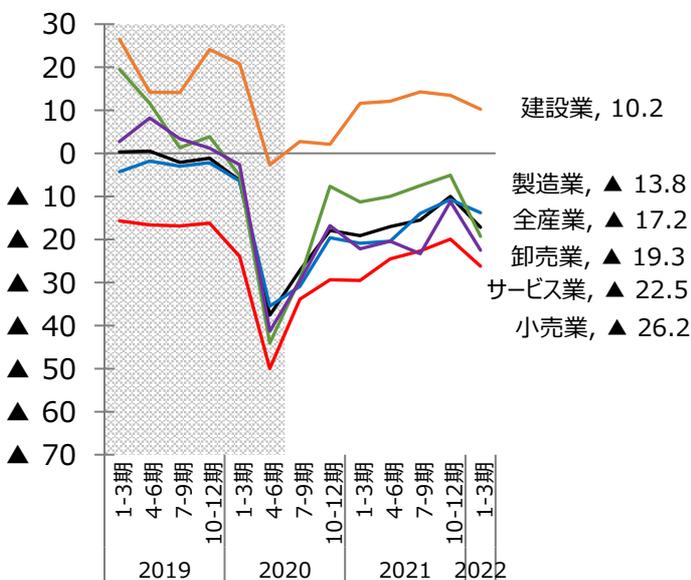


※今期の業況について「良い」、「ふつう」、「悪い」で質問。

## 2 中小企業の採算

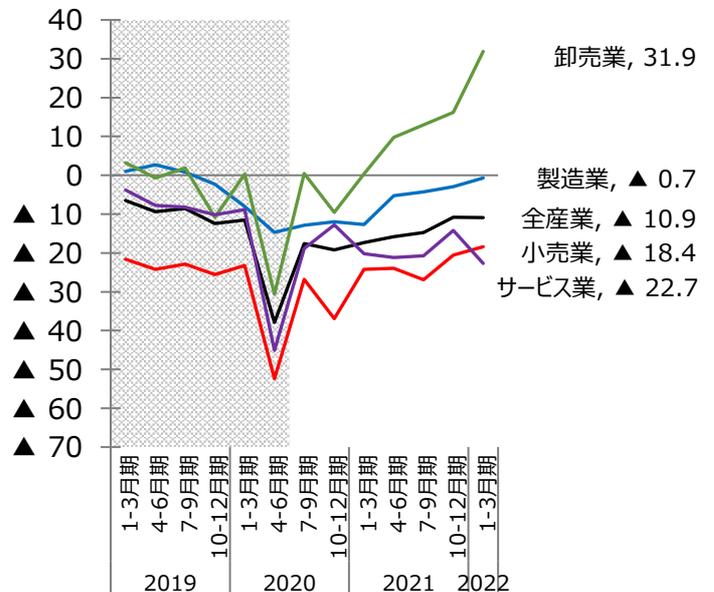
中小企業の採算DI（今期の水準、「黒字」-「赤字」）は、全産業で前期より7.2ポイント減の▲17.2となった。産業別に見ると、5産業すべてで低下した。また、売上単価、客単価の動向について、産業別の売上単価・客単価DI（前期比季節調整値）を見ると、サービス業を除く3産業で上昇した。

採算DI（今期の水準）



※今期の採算について「黒字」、「収支トントン」、「赤字」で質問。

売上単価・客単価DI（前期比季節調整値）



※前期（2021年10-12月期）と比べて、「上昇」、「不変」、「低下」で質問。

＜調査概要＞ 調査時点は2022年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数18,911、有効回答企業数18,052、有効回答率95.5%、うち、四国1,278企業

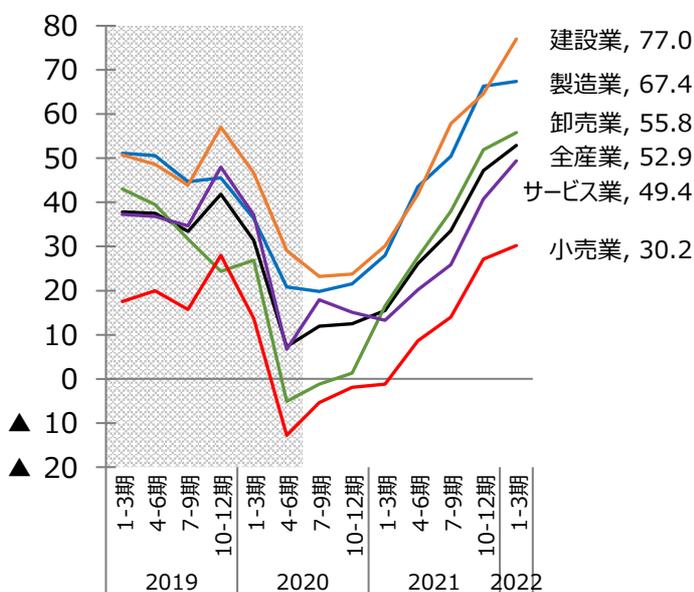
# 中小企業の景気動向について（四国）

## 3 中小企業の仕入単価の動向

中小企業の原材料・商品仕入単価DI（前年同期比、「上昇」-「低下」）は、全産業で前期より5.7ポイント増の52.9と7期連続して上昇した。産業別に見ると、5産業すべてで上昇した。

また、製造業で1980年7-9月期の調査開始以来、3番目に高い値となり、建設業で3番目、卸売業で5番目に高い値となった。

原材料・商品仕入単価DI（産業別）



原材料・商品仕入単価DI（産業別 上位順）

| 順位 | 製造業  |                | 建設業  |              |
|----|------|----------------|------|--------------|
|    | DI   | (時期)           | DI   | (時期)         |
| 1  | 76.7 | (2008年7-9月期)   | 79.6 | (2008年7-9月期) |
| 2  | 72.2 | (2008年4-6月期)   | 77.2 | (2008年4-6月期) |
| 3  | 67.4 | (2022年1-3月期)   | 77.0 | (2022年1-3月期) |
| 4  | 66.7 | (2008年1-3月期)   | 66.4 | (2014年4-6月期) |
| 5  | 66.3 | (2021年10-12月期) | 65.8 | (2008年1-3月期) |

| 順位 | 卸売業  |                |
|----|------|----------------|
|    | DI   | (時期)           |
| 1  | 79.0 | (1980年7-9月期)   |
| 2  | 65.8 | (2008年7-9月期)   |
| 3  | 64.8 | (1980年10-12月期) |
| 4  | 59.5 | (1990年10-12月期) |
| 5  | 55.8 | (2022年1-3月期)   |

※前年同期（2021年1-3月期）と比べて「上昇」、「不変」、「低下」で質問。

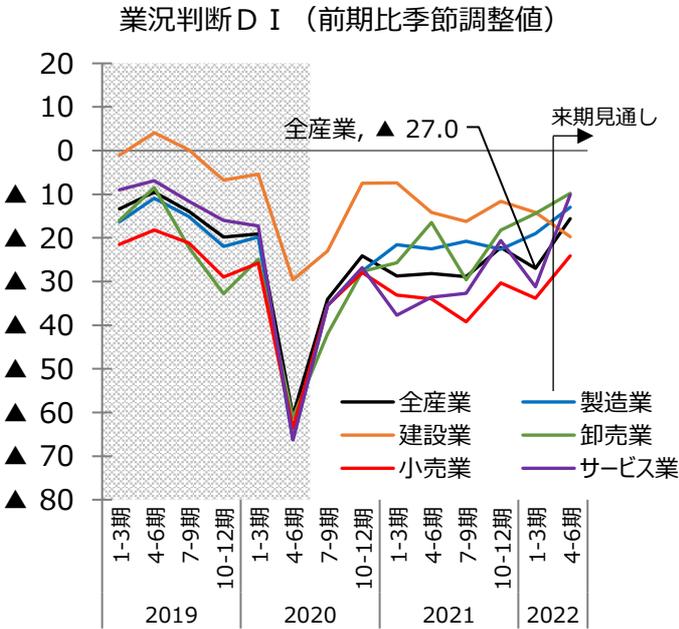
## 4 四国の中小企業の声

|     | 業況判断の背景  | 業種                                 |
|-----|--|------------------------------------|
| 現状  | 昨年度2度にわたる小麦粉の値上げ、今年度より電気料金他燃料等の値上げによる利益率の低下、又年令による仕事等の低下が心配。製品の値上げを考えなければならない状況になっている。 | 製造業<br>めん類製造業                      |
|     | 色々の物が値上がりして外注費も少しずつ上昇し、コロナの影響でウォシュレットや給湯機が入荷しないので売り上げの減少になっている。                        | 建設業<br>その他の管工事業                    |
|     | 毎年自社は1月から3月期は1年で一番悪い時期です。その上今年は仕入単価がアップし先行不透明の状態です。                                    | 卸売業<br>その他衣服卸売業                    |
|     | コロナ禍の影響で依然厳しい状況が続いている。季節商品を扱っている為、商品手配の資金繰りも苦慮している。国等の支援金は大変有難いが、追いつかない状況である。          | 小売業<br>婦人服小売業                      |
|     | 例年、年度末に向けて大型工事に伴う廃棄物処理が増加するが、今年度はやや低調である。次年度の予定も例年並みの予想をしている。                          | サービス業<br>産業廃棄物処分業                  |
| 見通し | ウッドショックによる原材料不足、高騰がいつまで続くのかと、今後、工務店などの倒産、資金繰りの悪化が不安視される。                               | 製造業<br>一般製材業                       |
|     | コロナ後の各業体変更で、市場が縮小傾向で、同業種間の競争激化と資材調達難が激化する。冬の時代に突入するような気がする。差別化戦略が一層必要となる。              | 建設業<br>一般土木建築工事業                   |
|     | 外食、観光の需要の停滞に加え、原油価格の上昇により業況は非常に厳しい。こうした状況は続くと想定し、値上げ交渉や不採算な仕事は断る動きをより活発に行う必要がある。       | 卸売業<br>その他の食料・飲料卸売業                |
|     | 燃料費（ガソリン・軽油）の高騰と4月より予定の商品の仕入価格の値上により営業利益が低下することが予想される。                                 | 小売業<br>コンビニエンスストア（飲食料品を中心とするものに限る） |
|     | コロナ禍により、大きく収入が減少し、ちっとも以前の状況に戻らないまま日が過ぎていきます。先行きにとっても不安を感じています。                         | サービス業<br>一般貸切旅客自動車運送業              |

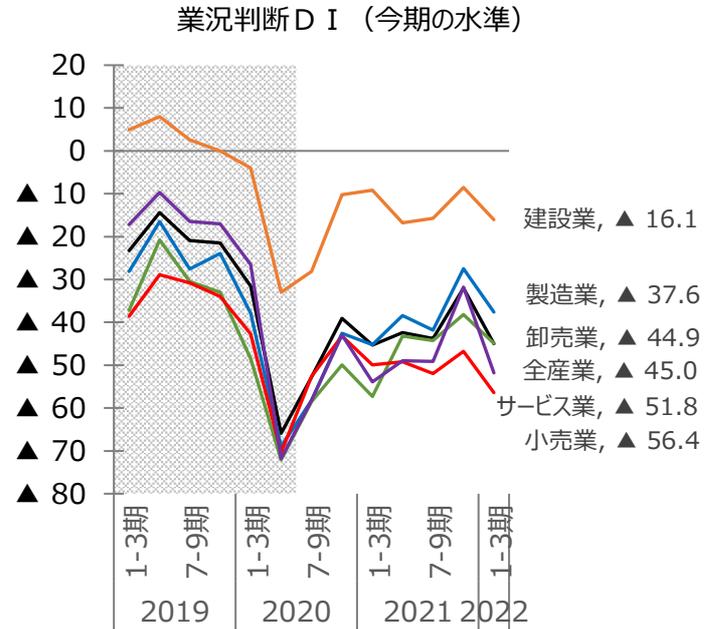
# 中小企業の景気動向について（九州・沖縄）

## 1 第167回中小企業景況調査（2022年1-3月期）の中小企業の業況感

九州・沖縄地域の中小企業の業況判断DI（前期比季節調整値、「好転」-「悪化」）は、全産業で前期（2021年10-12月期）より4.8ポイント減の▲27.0と、2期ぶりに低下した。産業別に見ると、卸売業と製造業で上昇し、サービス業、小売業、建設業で低下した。来期は、建設業を除く4産業で上昇する見通しとなった。また、業況判断DI（今期の水準、「良い」-「悪い」）は、5産業すべてで低下した。



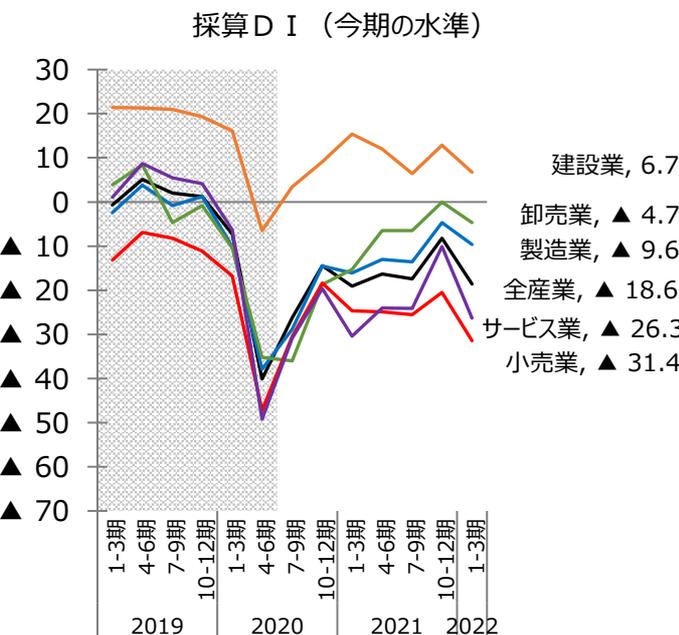
※前期（2021年10-12月期）と比べて、「好転」、「不変」、「悪化」で質問。



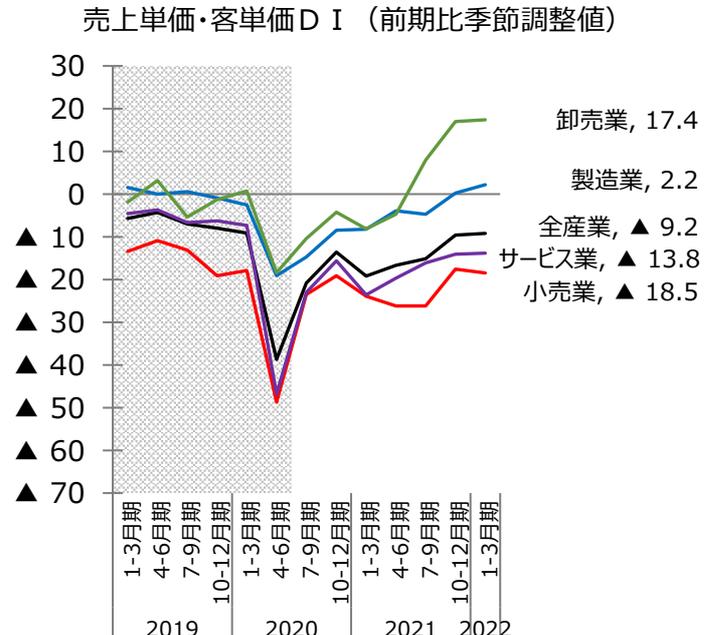
※今期の業況について「良い」、「ふつう」、「悪い」で質問。

## 2 中小企業の採算

中小企業の採算DI（今期の水準、「黒字」-「赤字」）は、全産業で前期より10.4ポイント減の▲18.6となった。産業別に見ると、5産業すべてで低下した。また、売上単価、客単価の動向について、産業別の売上単価・客単価DI（前期比季節調整値）を見ると、小売業を除く3産業で上昇した。



※今期の採算について「黒字」、「収支トントン」、「赤字」で質問。



※前期（2021年10-12月期）と比べて、「上昇」、「不変」、「低下」で質問。

<調査概要> 調査時点は2022年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数18,911、有効回答企業数18,052、有効回答率95.5%、うち、九州・沖縄2,768企業

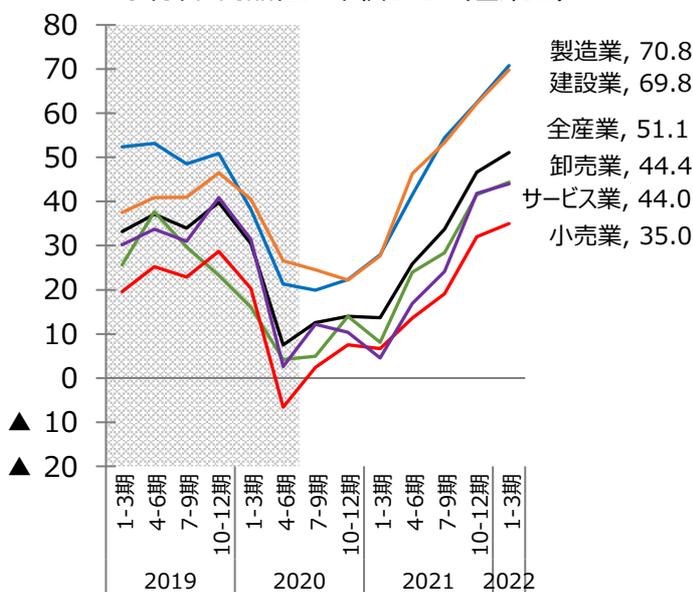
# 中小企業の景気動向について（九州・沖縄）

## 3 中小企業の仕入単価の動向

中小企業の原材料・商品仕入単価DI（前年同期比、「上昇」-「低下」）は、全産業で前期より4.5ポイント増の51.1と4期連続して上昇した。産業別に見ると、5産業すべてで上昇した。

また、産業別に見ると、製造業で1980年7-9月期の調査開始以来、5番目に高い値となり、建設業で4番目に高い値となった。

原材料・商品仕入単価DI（産業別）



原材料・商品仕入単価DI（産業別 上位順）

| 順位 | 製造業  |                | 建設業  |                |
|----|------|----------------|------|----------------|
|    | DI   | (時期)           | DI   | (時期)           |
| 1  | 80.0 | (2008年7-9月期)   | 80.8 | (2008年7-9月期)   |
| 2  | 78.1 | (2008年4-6月期)   | 78.4 | (2008年4-6月期)   |
| 3  | 75.3 | (2008年10-12月期) | 74.6 | (1980年7-9月期)   |
| 4  | 74.7 | (2008年1-3月期)   | 69.8 | (2022年1-3月期)   |
| 5  | 70.8 | (2022年1-3月期)   | 68.5 | (2008年10-12月期) |

※前年同期（2021年1-3月期）と比べて「上昇」、「不変」、「低下」で質問。

## 4 九州・沖縄の中小企業の声

|     | 業況判断の背景   | 業種                    |
|-----|---|-----------------------|
| 現状  | 合板や接着剤などの材料仕入価格の上昇が依然として続いており落ちつく気配なし。一方で受注競争のため販売価格に転嫁できていないのが実態である。代替材使用等社内努力しているが、今後収益の圧迫が大きな懸念。   | 製造業 木製家具製造業（漆塗りを除く）   |
|     | 従業員不足のため、仕事を取りたいと思っても取れない資金不足もある。どうにかして公共工事の一つでも取れると良いが、なかなか難しいのが現状。小企業が連携して仕事を取りお互い協力して回していけたら良いと思う。 | 建設業 土木事業（別掲を除く）       |
|     | 建築資材、燃料、職人手間代等あらゆるものの価格が高騰しており、それを販売価格に転嫁していくことが喫緊の課題である。脱炭素化の流れで、窓や出入口の断熱リフォーム需要の伸びが期待されるので、取込に注力する。 | 卸売業 板ガラス卸売業           |
|     | コロナ禍に対応して削るべきコストは削り経費面で売上減少に合わせてきたが想像以上に第6波の落ち込みが続いている。更に悪化が進む事は確実である為店舗閉鎖やリストラなど具体的に動く必要を強く感じている。    | 小売業 婦人服小売業            |
|     | 塗料、部品等すべての仕入値が上昇しているため、厳しい状態。受注は安定しているが、人材確保が困難で、受注を増やすことはできない状況。                                     | サービス業 自動車一般整備業        |
| 見通し | 新商品の受注とWEB事業が好調で、昨対比売上が伸びているが、材料費の上昇で利益率は悪化しており、人材と生産設備不足によって、今後の生産能力への悪影響は避けられそうにない。                 | 製造業 木製家具製造業（漆塗りを除く）   |
|     | ガソリンや材料費の上昇に加え、長引くコロナの影響により、官公需要、民間需要とも減少し、労働力不足と賃上げによる生産コストも上昇している。好材料が見当たらない中、先行きは暗い。               | 建設業 一般土木建築工事業         |
|     | 新型コロナウイルスの影響により、多くの企業が赤字脱却に向け、体質改善を行っているが、今後は借入金等の返済も含めてより一層外部環境が厳しくなっていくと考えられる。                      | 卸売業 米麦卸売業             |
|     | 昨年より原料価格が急に上がり、販売が困難になった。今後、商品仕入れが困難になる見込みで、今後販売するものがあるのか心配です。  | 小売業 肥料・飼料小売業          |
|     | 今こそ鹿児島島の旅事業で回復をしてきたが、停止になった今、客足が止まっている。今後割引事業がなくなった時の施策を今から考えていかなければ、事業の継続は難しいと感じている。                 | サービス業 旅行業（旅行業者代理業を除く） |